

あした

NO 09

目次

特集《パソコン通信》	
パソコン通信とは？	1
施設でのパソコン通信	3
私のパソコン通信活用法	5
パソコンクラブを作って	7
インターネットの可能性	10
新聞記事「パソコンに挑戦する障害者をサポート」	13
質問「携帯電話でパソコン通信をしたいのですが」	9
質問「パソコン通信の費用について教えて」	18
施設監査から見えてきたもの	15
生活施設居住者自治会の人権擁護機能について	19
新聞記事「カーテンレールの洋酒チョコに思うこと」	21
第2回障害者政策研究全国集会に行ってみて	23

読者の皆様に

事務局

★会費納入のお願い。事務局では助成金を得て、より活発な活動をしたいと考えていますが、現時点では皆様の会費が主な収入源です。会費の割に情報量が少ないかもしれませんが、全国の療護施設利用者のネットワークのための運動資金と考えてご理解いただければ幸いです。振込用紙を同封いたしました。

00 911 21 01 02

1911年11月1日

寒

日

1	【巻頭】	小説の歴史
2	1	小説の歴史
3	2	小説の歴史
4	3	小説の歴史
5	4	小説の歴史
6	5	小説の歴史
7	6	小説の歴史
8	7	小説の歴史
9	8	小説の歴史
10	9	小説の歴史
11	10	小説の歴史
12	11	小説の歴史
13	12	小説の歴史
14	13	小説の歴史
15	14	小説の歴史
16	15	小説の歴史
17	16	小説の歴史
18	17	小説の歴史
19	18	小説の歴史
20	19	小説の歴史
21	20	小説の歴史
22	21	小説の歴史
23	22	小説の歴史
24	23	小説の歴史
25	24	小説の歴史
26	25	小説の歴史
27	26	小説の歴史
28	27	小説の歴史
29	28	小説の歴史
30	29	小説の歴史
31	30	小説の歴史
32	31	小説の歴史
33	32	小説の歴史
34	33	小説の歴史
35	34	小説の歴史
36	35	小説の歴史
37	36	小説の歴史
38	37	小説の歴史
39	38	小説の歴史
40	39	小説の歴史
41	40	小説の歴史
42	41	小説の歴史
43	42	小説の歴史
44	43	小説の歴史
45	44	小説の歴史
46	45	小説の歴史
47	46	小説の歴史
48	47	小説の歴史
49	48	小説の歴史
50	49	小説の歴史
51	50	小説の歴史
52	51	小説の歴史
53	52	小説の歴史
54	53	小説の歴史
55	54	小説の歴史
56	55	小説の歴史
57	56	小説の歴史
58	57	小説の歴史
59	58	小説の歴史
60	59	小説の歴史
61	60	小説の歴史
62	61	小説の歴史
63	62	小説の歴史
64	63	小説の歴史
65	64	小説の歴史
66	65	小説の歴史
67	66	小説の歴史
68	67	小説の歴史
69	68	小説の歴史
70	69	小説の歴史
71	70	小説の歴史
72	71	小説の歴史
73	72	小説の歴史
74	73	小説の歴史
75	74	小説の歴史
76	75	小説の歴史
77	76	小説の歴史
78	77	小説の歴史
79	78	小説の歴史
80	79	小説の歴史
81	80	小説の歴史
82	81	小説の歴史
83	82	小説の歴史
84	83	小説の歴史
85	84	小説の歴史
86	85	小説の歴史
87	86	小説の歴史
88	87	小説の歴史
89	88	小説の歴史
90	89	小説の歴史
91	90	小説の歴史
92	91	小説の歴史
93	92	小説の歴史
94	93	小説の歴史
95	94	小説の歴史
96	95	小説の歴史
97	96	小説の歴史
98	97	小説の歴史
99	98	小説の歴史
100	99	小説の歴史

小説の歴史

小説の歴史は、古くは神話や伝説から始まり、中世には騎士物語や市民物語、近世には小説の歴史として発展してきた。この歴史は、社会の発展や文化の進歩と密接な関係がある。小説は、人間の生活や感情を表現し、読者に教訓や感動を与える重要な文学形式である。この歴史を通じて、小説の役割や価値を理解することができる。

パソコン通信とは？

京都 金沢正裕

最近インターネットという文字をやたらと見たり、聞いたりしますが、一体なんのことかご存じですか？

それは、パソコン通信のことです。パソコン通信って？と思われる方もおられるでしょうが、パソコン通信とは、市販のパソコンを使って電話回線を通じ、東京のAさんが大阪のBさんと手紙を交換したり、また北海道のCさんが、自分の意見（メッセージ）を発表したのを全国の誰かが読んだり、その返信や反論をしたり出来るのです。だから自分の好きな番組（SIG）をのぞいたり、特に知りたい情報を得ることも出来ますし、その方に質問をしたり、友達になったりも有り得るわけです。

ではどのように始めるのかと言えば、先ずパソコンという機械を買わねばなりません。いいのは50万円も70万円もしますが、中古なら1万円程でもあります。それと通信をするためには電話線とつなぐモデムというものと、通信ソフトが必要です。モデムもスピード差によって1万円以下のものもあり、通信ソフトも無料のものがあります。

この3つ揃えば後はネット局に入会すれば、パソコン通信の始まりです。大手のネット局はNIFTYとかPCVANですが、ここは1分間に8円とか10円とか課金が掛かります。また個人でこのネット局を持つパソコンのマニア（BBS）がありますが、これは殆ど無料です。またインターネット局もありますが、これは年会費いくら等と費用が掛かります。無論、忘れてはならないのは通信中は電話代が掛かっているわけで、ボクも最初は操作が分からず、そのネット局に3万円、電話代が2万円も掛かりビックリしました。でも今は月間の固定制があり、電話も深夜の2局だけですがテレホーダイというのがあります。ちなみにパソコンは2000円、電話は1800円です。それとパソコン通信で知り合った相手が遠方の方でも、手紙（メール）をする場合は、相手の市外局番に電話するわけではありません。自分の市内局番に掛けますから3分間10円で済むわけです。

大手のネット局には障害者SIGがあります。自己紹介コーナーから外出、就職、結婚、自立、福祉機器、ボラン

ティア等など両方で30ほどあります。そのメンバーには重度障害者もいれば健全者も医者もボランティアもいます。また、中にはそこで知り合った男女が結婚した例もあります。ウケッたネ!

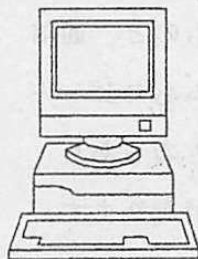
ボクは、仕事を見つけたことがありました。それはワープロのタイプです。つまり印刷屋とか出版社から、郵便や宅配便、FAXで原稿が届き、それを入力(タイプ)して毎晩パソコン通信で相手先に送るのです。ちょうど手紙を送るように。またパソコンでは入力した文字を、圧縮して送信することも出来ますので、例えば2万文字をそのまま送ると5分も10分も掛かるけど、圧縮すると1~2分で送れ、それだけ電話代も安くなるわけです。そしてこれは、在宅就労として立派な仕事になりますから重度障害者の在宅就労として自立のパイオニアになるはずですが、でも残念ながら企業のその理解がありません。もしNHK出版などがバックアップしてくれれば、ボクは100人

の重度障害者の面倒がみられることでしょうか???

インターネットについて少し述べてみますと、先ほどの大手ネットからもインターネットに入れます。特に外国にメールフレンド(文友)が出来たら、いとも簡単にメールが送れます。また信じられないかも知れませんが、何とアメリカへも電話代を含めても20円~30円で手紙が送れ、それも5~6時間で届きます。ちなみに北海道から沖縄にメールした場合は即到着して、料金はほぼ同じです。郵便局は真っ青ですネ。ボクなど固定制だから、タダということになりますわ。

インターネットの魅力はホームページというものです。ホワイトハウスや総理府、有名企業を覗けば、それぞれの案内やコマーシャルが出てきます。中には欧米のポルノ見たさにアクセスする者もいます。でも結構時間が掛かり、電話代も安くないそうです。

以上、ボクの初歩講座でした。



施設でのパソコン通信

イマジン (NIFTY-Serve ID=CQD00462)

施設で暮らしていてパソコン通信をするには、個人で携帯電話に加入してパソコンに繋ぐか、アマチュア無線免許を取ってRBBS (Radio無線のパソコン通信) をする方法がありますが、施設の電話回線を使わせてもらうのが便利で、一般的でしょう。それには、施設の理解、協力が必要になります。

私たちの施設の場合、パソコン通信をしたいという有志が集まり、施設に要望を出し、パソコン通信専用の電話回線を新しく付設してもらうことができました。

但し、希望する誰もが使えるように、また、その電話回線の運営、管理に責任を持つように、「パソコン通信クラブ」というクラブを発足させることになりました。

付設してもらった電話回線はデジタルの「INS64」で、最高64Kbpsの通信ができます。

ターミナル・アダプターには、アナログ・ポートが二つとデジタル・ポートが付いていて、普通の電話だったら二回線同時 (32Kbpsずつ) に使える

わけです。現在、このデジタル回線には、パソコンが4台、繋がっていますが、使用するときには、同じラインを一緒に使わないように確認してから使うようにしています。

デジタル回線の設置、ターミナル・アダプター、毎月の基本料金は、施設の負担、モジュラー・ジャックからパソコン迄の配線、モデム等機器、通信料金は、利用者各自の負担となります。

通信料金は、毎月、NTTの料金明細書に使用時刻、相手先電話番号が記されてくるので、各自、通信ソフト (WTERM等) のTEL記録や、「NIFTY-Serve」の利用料金情報 (GO BILL) の詳細記録を突き合わせて、計算、分担しています。まだ、利用者が少ないので、特に不明利用も混乱もなく、電話料金の支払いは済んでいます。

○

パソコン通信の主要機能のひとつに、コミュニケーション・ツール (伝達の道具) としての利用法があります。

例えば、パソコン或いはワープロに打ち込んだ文章を、その場で、パソコ

ン通信を利用して、遠くの相手に、次の方法で送ることができます。

相手がパソコン或いはワープロを持っていて（モデムも必要）、パソコン通信ネットワークに加入していれば、電子メールを送ることができます。

相手がFAXを持っていれば、パソコン通信のFAX送信機能を使ってFAXを送る（デジタル化された文字情報を直接に送るので、FAXの文書は鮮明な活字体で打ちだされます）ことができます。

または、モデムがFAXモデムであれば、パソコンのワープロ・ソフトで書いた文書（画像付きも可）を直接、相手のFAXへ送ることができます。

相手がFAXを持っていなくても、パソコン通信のレタックス・サービス機能を使って、郵便局からレタックスを送る（FAXの文書を郵便屋さんが家まで届けてくれる）こともできます。

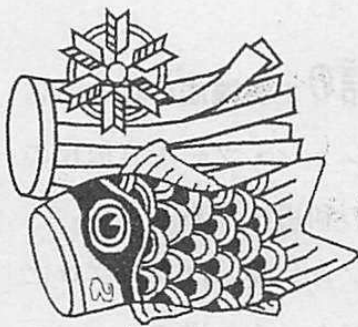
私は、パソコン通信の機能の中で、この電子メールをもっともよく利用し

ています。

電話は相手の時間を奪うし、文字としての記録が残りません。手紙はポストに入れにいかねばならず、また郵送に日数がかかります。しかし、電子メールは瞬時に届き、それを見るのは、時間があるときならばいつでも構わないのです（「NIFTY-Serve」の場合、2週間立つと削除されますが）。そして、その文書はデジタル化されているので、保存も、編集、加工をすることも、プリンタに打ち出すことも容易です。

電子メールという、電話、手紙とは違うコミュニケーション手段を持ち、その特性を生かし、利用することによって、新しい人間関係と表現方法が広がる可能性があるのです。

今回、この原稿も、電子メールとして、編集者へ送るつもりです。編集者は、わざわざ、原稿を打ち直す手間もいらず、そのまま、パソコンに取り入れ、ワープロで編集して、会報に印刷することになるでしょう。



私のパソコン通信活用法

小峰和守

家族と離ればなれで生活しており、
なんとか父親らしいことをと心がけ、
手紙も書いてきたが、つつい面倒に
なる。文面は書けても、宛名を書いて、
封筒に入れ、封をして、切手を張るの
は職員に頼み、さらにそれを事務所に
もっていかななくてはならないからだ。

家族にもパソコンがあれば通信が楽
しめるが、あるのはFAXだけだ。

そこで始めたのが、パソコン通信で
一般のFAXに文章を送るFAXメー
ルだ。

これが快適でやめられない。ドツボ
にはまってしまった。

あらかじめ文章は打っておく。通信
ソフトに切り替え、メールと全くおな
じ要領で送信する、この間わずか1～
2分である。しかも、5分もすると相
手先に活字になって届くという早業で
ある。これに掛かる費用といえば、電
話代10円+ネット使用料8円(1分
間)+FAX料40円の合計58円で、
手紙の80円より安いのだ。

気に入っているのはそれだけでなく、

手紙ほどの堅苦しさがなく、手
紙だとなついつい肩に力が入る。子ども
宛になるとお説教ぽくなってしまふ。

ところが、パソコン通信では好き勝
手な話題(「パンにマヨネーズは合う
の?」とか)でかまわないし、顔絵・
・(´_`)/とか(◎_◎)・・・も使える
し、「拝啓・・・敬具」は「寒いネ・
・・・ではでは」で済ませられるのだ。
ちょうど、手紙ほど堅苦しなく、か
といって、電話ほどくだけないところ
も魅力なのだ。

もちろん、自治会ネットでも、事務
局間の連絡や、各地の方との情報交換
に電子メールや、FAXメールを使っ
ている。前述のように、郵便物にしな
くて済むうえに、一度に多数の方に送
れる利点もある。皆様からいただく原
稿もなるべくメールでいただいている。

さらに、手書きの原稿を活字化する
のにも、パソコン通信を利用している。
手書きの原稿は一度ボランティアの手
でパソコンで読める活字(テキストフ
ァイル)に変換されて、パソコン通信

のメールで送られてくる。ここまできればあとのイラストを入れたり、レイアウトしたりは簡単で、アツという間に版下ができあがる。いままで、原稿は鉛筆の付いたデバイスで一文字づつ打っていただけに大助かりである。

もちろん、このボランティアを見つけるのも、パソコン通信の掲示板を利用した。この掲示板を使えば外出ボランティアを見つけるのも、旅先のホテルや車いすトイレのアクセス状況を調べるのも可能だ。(例えばNiftyのfhndcフォーラム)

買い物(本や窓付き封筒)もしている。本の場合、送料が別に400円ほど必要だ(ただし、大量に注文すれば無料になる。協同という手がある)が、往復のバス代と考えれば安いもの。それにしても1週間で届いたのは普通の本屋に注文するより早かった。

窓付き封筒も何軒もの店に電話しまくり、それでも見つからなかったのが、パソコン通信のショッピングで一発で見つかった。しかも色も大きさも揃っていた。こうなるとパソコン通信は施設利用者のためかと思えてくる。ただし、カード決済ということで、新たに入会しなければならなかったが。

最後に、友人が増えることが嬉しい。

パソコン通信で知り合った仲間に施設まで来てもらってパソコンの技術指導を受けたり、買い物をお願いしたりするうちに、お花見に誘われたり、表に飲みに出かけたりして、知らず知らずのうちに友人になっていたのだ。

最近、そんな友人のひとりから、勤め先の会社で回っているメールだと、金沢大学自然科学研究科地球環境科学の上島雅人さんの「日本海重油汚染の見えざる影響」というメッセージが転送されてきた。この事件は施設に暮らす私たちには無関係だと思っていたのが、受け取った時点で、重油流出事件ともろに向き合わされた。もっと言えば、障害の有無や施設での生活に関わらず私もその会社の人たちと情報を共有できたわけだ。パソコン通信は社会との接点にもなっている。

皆様に伝えたい情報も、現状では機関紙によるしかなく、かなり選択しなくてはならなかったり、印刷・発送という手間も馬鹿にならない。情報が陳腐かしてしまうこともある。何とか電子版「あした」をパソコン通信網に載せたいと考えている。

パソコンクラブを作って

長崎県立コロニー

パソコンクラブ部長 迎 保友

私たちの施設は、入所者170名

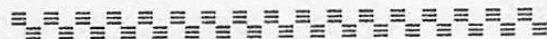
(男85名、女85名)の身体障害者療護施設です。居住棟は、男女半々ずつ4つの棟に分かれて生活しています。

このような環境の中で生活している私たち障害者は、言葉や動作の制約から自己表現がなかなか出来ません。それが現在は、パソコンやワープロなどの情報処理機器の発達に伴い、それらを利用することで、ある程度可能となりました。

当コロニーの入所者に於いても、これらの機器を使い、それぞれが様々な活動をしています。活用歴は1年以内から17年と多様です。これらの機器を利用するきっかけも多様であり、最近始めた人にとって使いこなすという

ことは、障害を受けた部位や程度等により、多少の差はあるにしても、大変困難であります。まして最近のハードとソフトは多機能になり、便利さが増した反面、習熟するのにもかなりの努力が必要となっています。

自然とワープロを主にする人、またグラフィックを主に扱う人、プログラミングをする人といった具合になっていきます。そこである程度使えるようになった人達の中から、最近機器を購入して使い始めたばかりで戸惑っている人達の為に、クラブでも作って勉強のお手伝いをしようと、コロニー当局と話をし、パソコンクラブを発足させました。以下にクラブ活動内容を記します。



- ①クラブ発足年月：平成7年9月
- ②クラブ員数：16名(男15名、女1名)
- ③活動日：毎月第4木曜日(13時～15時)
- ④活動内容：パソコン操作、パソコン通信、行事関係ポスター作成、毛筆レイアウトの作成、職員等個人年賀状の作成(有料)、チラシ作成等。

⑤クラブ専用パソコン：1台（コロニー備品・平成8年3月購入・プリンター含む。平成9年2月スキャナーをコロニー備品として購入。）

【参考】コロニー入所者個人所有パソコン=18台、ワープロ=19台。

⑥パソコン通信（インターネット）

- (1) 加入年月：平成8年6月（プロバイダー=富士ネット）。
- (2) 加入料金：年額30,600円（1年分前納・クラブ員負担）
- (3) 経費：パソコンクラブ専用電話の基本料金はコロニー負担。
使用料金はクラブ員負担。

【参考】インターネット通信は、コロニーにパソコンクラブ専用電話の分配機を設置してもらい、4つの居住棟の代表の個人パソコンに接続して、居住棟でもアクセス出来るようにしている。ちなみに、当施設では個人所有の電話はまだ認められていない。

- (4) クラブ会費：月額400円（インターネット加入後から）



以上のような形態で、パソコンクラブ活動の一環としてパソコン通信等に取り組んでいるところですが、実際にインターネットへアクセスしてみるといろいろなことが勉強でき、そのあまりの便利さに驚いています。各人の欲しい情報が居ながらにして取得出来るのは夢のようです。O-157が猛威を振るった昨年の夏にはその情報を取り、医療や厨房関係職員へ配布したりもしました。

その他に、書籍やパソコン関係の機器の購入等々に活用しております。実

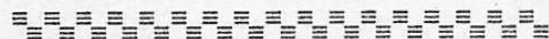
際問題として、我々の様に直接商品を見て確認する事が困難な者にとって、製品のカatalog等を調べたりして買い物出来る事は、非常に便利な上、ありがたいと思っています。

インターネットを始めたばかりの頃は、あちらこちらのホームページを開いてのぞく程度でしたが、自分達もホームページを持って情報の発信をしようということになり、プログラムが得意な一人のクラブ員が中心になり現在作成中です。

当パソコンクラブでは、インターネットを始めて一年足らずで、まだまだ

完全に使いこなしているとは考えておりません。現在模索中というのが正直なところ。様々なホームページを開いて、世界中のパソコンが接続され、お互いの情報交換が出来ますので、我々も、大いに勉強しながら、それにわり合って行きたいと考えています。

当面、パソコンクラブとしては、コ



〒857-12 長崎県佐世保市野崎町1746番地

長崎県立コロニー パソコンクラブ

TEL 0956-28-0324 (コロニー代表)

FAX 0956-28-1609 (コロニー)

ホームページアドレス <http://www.fsinet.or.jp/~colony>

メールアドレス colony@fsinet.or.jp

平成9年2月24日

ロニーの年3回発行の機関誌(14ページ程度)のレイアウト作成を受け持ち、外部からの仕事も受けて、「生き甲斐」と「自立」につなげていきたいと思っています。

全国ネットワークの皆様とも連携をとりながら、共に成長していきたいものです。よろしくお願いします。



質 問

携帯電話でパソコン通信をしたいのですが・・・。

施設では個人電話を設備してもらえない、そこで携帯電話ではと、なるのでしようが、1. PHSですら、一般電話に比べ通話料が四倍と非常に高いこと、2. 施設のように山奥の、しかも鉄筋でシールドされた建物では電波が届かないことなど問題が多く、使っている人を知りません。

それよりも、一般電話回線にして、それを接続する場所を1. 個室がだめなら共用スペースの一部を区切るとか、2. クラブにしてクラブ室にするとかの、工夫をしたほうが得策ではないでしょうか。「パソコン通信クラブ」なんて時代を先取りしているようで、施設側にも受けはいいようです。



インターネットの可能性

水島秀俊

今回の「あした」は、パソコン通信特集ということで、私の利用法などについて少し述べてみたいと思います。

私は現在、天竜厚生会・厚生寮という療護施設で生活しています。入寮して今年の5月で丁度4年になります。

20年以上も前からある施設です。大抵は4人部屋（一部2人部屋）で、居室の作りも少し狭いです。ですから普通のデスクトップ型のパソコンを置くスペースなど、とてもありません。ですから学習室という所に自分のパソコンを置かしてもらっています。ほかに2人程、ワープロ専用機を置いています。施設内でパソコンを使っているのは、今のところ私だけです。

今まではパソコンは、ワープロやデータベースやゲーム等に使っていました。パソコンを使って通信をやりたいと思っていたのですが、電話線が事情があって引けませんでした。居室に直接引いて、ノート型パソコンで通信でもしたかったのですが、たまに居室の移動があるのでダメということでした。それなら学習室にでもと思ったのです

が、一人だけ特例というわけにはいかないという理由でなかなか許可が下りず、半ば諦めていました。

それから1年ぐらい過ぎたでしょうか、移動で寮長も代わりました。それとタイミング良く、インターネットの某サークルの人達が、今はやりのインターネットの実演をしながら、その素晴らしさをアピールするために施設を訪れました。

初めて見るインターネットは、外出する機会が少ない私達にとって、外の情報を得るには最適な方法のように思えました。

このタイミングを逃してはいけないと思い、寮長にインターネットの必要性を説きました（ちょっと大袈裟ですが）。新しい寮長は、このことに前向きに考えてくださり、学習室に実費で電話線を引いても良いという許可が数ヶ月後に下りました。

この際という事で、パソコン通信よりも、今はやりのインターネットを始めることにしました。パソコンも4年前の古い型なので、インターネットが

出来るように、メモリやCPUの増設や拡張をしたり、モデムを購入したり、プロバイダ（インターネットの接続を代行してくれる会社）と契約したりで、なんだかんだで15万円位は費やしたと思います。パソコンの性能は快適ではないですが、なんとかインターネットができる環境は整いました。

ホームページは無数にあり、その中から自分に必要な情報を見つけるのは大変ですが、慣れてくると要領も分かってきてスムーズに検索できるようになりました。遊びでダラダラ使っていると電話代がかさんで大変なことになるので、本当に自分に必要な情報を得るためだけに、手際よく、なるべく電話代がかからないように気を付けて使っています。

お薦めのホームページがあるので、一つ紹介しましょう。社会福祉法人・和松会（所在は静岡県小笠郡。URLは、WWW.sphere.ad.jp/washokai）のページです。和松会の紹介や、福祉関係のホームページへのリンクなど盛りだくさんです。是非一度アクセスしてみてください。また、施設内の、希望する入所者や職員にもインターネットを実演したりして、先端を行くマルチメディアを体験してもらっています。

インターネットの素晴らしさは、ホームページを見るだけではありません。電子メールというものもあります。電話線とつながった相手のパソコンとメールの送受信をする機能です。メールを送受信するときにだけ電話線と接続するので、電話線をつなぎっぱなしのホームページを見る場合と比べて、電話代が少なくて済みます。

電子メールの良さは、パソコンに向かって画面だけで操作できる手軽さにあります。手紙等を出すのは面倒くさい人でも、電子メールなら楽しみながらできてしまうのが魅力です。

私の場合、パソコンについてわからないことを電子メールで友人に尋ねたり、前述の和松会の園長と福祉関係の情報を交換したりしています。電子メールのやりとりが縁で、大学時代の友人と十数年ぶりに再会したり、大学時代にお世話になった教授から電子メールで大学の現在の状況についてのメールもいただきました。友人が、別の友人のメールアドレスを教えてくれて、友達の輪も広がりつつあります。活用次第では、どうしても外出する機会が少なく、外の情報を得にくい施設で生活する私達にとっては、とても有効な手段になります。

私にとって今の課題は、パソコンが学習室にあるということです。床ずれが出来やすい私は、一度できると1～2週間もベッド安静になってしまい、パソコンに向かえないことです。個室や2人部屋で枕元でノートパソコンを置いて通信ができる人は、それが最良の方法ですが、ほとんどの人が、そのような環境にはないでしょう。

今後の展開としては、携帯電話やPHSを利用する方法です。これらをノートパソコンにつないで通信をすれば、電話回線を引く必要もありません。ただ携帯電話は、まだ通信費が相当割高ということです。PHSもまだエリアが狭く、大抵の施設は郊外や山間にあるので、エリア外ではないでしょうか。しかし、お金が余裕のある人ならば可能な方法です。どこでも通信ができる魅力があります。

パソコンや携帯電話といった分野は、今一番進歩している分野です。近い将来、必ずもっと経済的に手軽に携帯電話やPHSにパソコンをつないで通信ができる時代がきます。そんなに遠い将来ではないでしょう。そうなれば多くの施設の人達が、通信を利用できるよう

になるでしょう。

また、パソコンについてよく分からない人は、私が購読している初心者向きの本を紹介します。いきなり始めるよりも書籍である程度知識をつけておいた方が、理解も早いと思います。その本は、タッチPC（月刊、毎日コミュニケーションズ社）です。一度購読してみることをお勧めします。

現在通信をしている人がいたら、電子メール下さい。メールアドレスは、hazedon@tcp-ip.or.jpです。パソコン通信からインターネットを経由してメールを送信する場合は、私のメールアドレスの頭に、INET:をつければ送信できます。

多くの方が、興味を持たれてインターネットやパソコン通信を始められることを願っています。

〒431-34

静岡県天竜市渡ヶ島217-3

天竜厚生会・厚生寮

TEL・FAX 053-583-1127

水島秀俊

E-mail hazedon@tcp-ip.or.jp



パソコンに挑戦する障害者をサポート

パソコンに挑戦する障害者のガイド役を務めるボランティアのネットワークが来月、東京で設立される。パソコン通信は障害者にとって強力なコミュニケーション手段だが、指導者が少ないためわずかなトラブルでもお手上げ。ネットワークでは障害者にかわって機器を設定したり、電話相談に応じたりするという。

「通信は交流に大きな力」

機器設定や電話での相談も

重度の脳性まひで家に閉じこもりがちだった福井県松岡町の長谷川清治さん(44)は一昨年十月、通信をやってみようと、持っていたワープロに通信用の機械を取り付けた。

ところが、右手の指一本しか動かせない長谷川さんは、パスワードなどを入力し終わらないうちに時間がたって回線が切れてしまう。機械が自動的に入力してくれる設定の方法もわからず、面識のあった全国障害者問題研究会事務局長の菌部英夫さんへ、電話で助けを求めた。

同会の通信ネット「みんなのねがいネット」の責任者でもある菌部さんは、電子機器メーカーに務める知り合いの

エンジニアに相談。長谷川さんのワープロ用に設定した、フロッピーを作成して送り、昨年五月には菌部さんが長谷川さん宅を訪問した。

菌部さんは「介護はできても機械は苦手という人もいれば、障害者と接した経験はないがパソコンなら任せてという人もいる。それぞれが得意分野を生かしてネットワークを結べば、障害者にとっても大きな力になる」と、話す。

ボランティアのネットワーク来月設立

障害者の間でもパソコンへの関心は高く、昨年六月と八月に都内で講習会を開いた際には定員の二十人を越える参加者があった。元エンジニアの知識を生かしてボランティアとして手伝っている主婦島谷綾子さん(33)は「障害

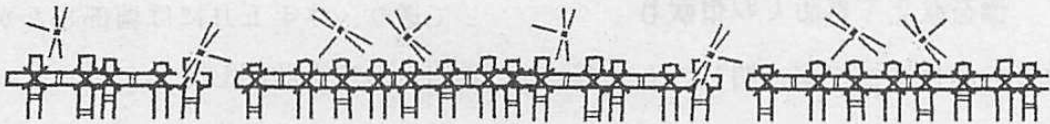
の内容や程度に応じて機械をちょっと工夫してあげるだけでも、使い勝手は全然違って来る」と言う。

障害者や福祉関係の地域ネットは、菌部さんらが昨年調べた限りでも約三十。千五百人の会員のいる「みんなのねがいネット」を始め、全国で約一万人の障害者らが利用していると言われる。また、個人や団体でのインターネットのホームページも最近急速に増え、三百はあるという。「外部との交流の機会が少ない障害者

にとって、通信という手段は、健常者以上に意味が大きい」と、菌部さん。

(中略) また、現在活動してしている三十の通信ネットを網羅したガイドブックを作ってネットワークの輪を広げ、障害者がより身近な地域でサポートを受かれるような体制を作っていくことにしている。

問い合わせは〒173 東京都板橋区小茂根1-1-7、同協議会事務局 (03・5995・4501、FAX03-5995-4502、E-mail83894704@people.or.jp) へ。



再度お願い

事務局

「あした」8号でもお知らせしましたが、ただいま、厚生省などに要望書を提出する運動を展開中です。つきましては、以下の項目につき会員諸氏にもご協力いただけますようお願いいたします。

1. 自治会でも個人でもかまいませんから、要望書に取り入れて欲しい事項を5月末までに、箇条書きまたは、文章でお知らせ下さい。
2. 自分の施設内だけでもかまいませんから、賛同人の署名を集めていただける利用者や、職員の方を募っております。また、他の施設で協力してくれそうな利用者や職員もご紹介下さい。(締切7月末)
3. 印刷代やら、全国の施設への郵便代やら多額な資金が必要になってきます。が、事務局は機関紙発行でぎりぎりです。資金協力も合わせてお願いします。なお、切手や封筒などの現物でもかまいません。(随時) いずれの場合も事務局宛てにご連絡下さい。

施設監査から見えてきたもの

小峰和守

..... 毎日新聞社 96.12.30 東京本紙朝刊

障害者施設入所者の処遇、27%に問題 厚生省、監査結果を公表せず

◇預かり金の流用も

厚生省が自治体を通して全国1032の障害者施設などを対象に行った1994年度の指導監査で、何らかの指摘を受けた987施設のうち「入所者の処遇上の問題がある」とされたのは266施設(27・0%)に上ったことが29日、分かった。入所者の預かり金の管理が不適切だったケースなどが含まれる。この指導監査は20年以上前から行われているが、結果は公表されておらず、同省がずさんな状況を把握しながら、十分な対策が取られていなかった実態が浮かび上がった。

調査は、都道府県と政令指定都市が、管内の1032の障害者施設や保護施設などと、それを経営する581の社会福祉法人を対象に実施した。

入所者の処遇上の問題があると指摘された266施設の内訳は、「給食で調理員の検便や栄養確保が不十分」(79施設、29・7%)、「入所者の預かり金の管理、取り扱いが不適切」

(31施設、11・7%)、「入所者の負担金を不適切に徴収」(18施設、6・8%)——など。

また運営管理上の問題を指摘された障害者施設は532施設(53・9%)。この中では、予算執行が不適切など「会計事務処理が不適正」と指摘された施設が141施設(26・5%)で一番多かった。

581の社会福祉法人のうち何らかの問題を指摘されたのは578法人。このうち理事会運営や監査の問題点を指摘された法人は40・0%の231法人。その内訳をみると、「理事会運営が低調、形がい化」(74法人、32・0%)、「監事監査が形がい化」(28法人、12・1%)——などだった。

これまで指導監査結果は内部指導に利用されただけで、一般公表はされてこなかったが、92年度から94年度にかけ、運営が「著しく適正を欠く」とされたケースが少なくとも5件発生。

(1) 理事長が自宅新築代金支払いのため、法人名義の手形を振り出し1200万円を決済した上、県監査が迫って施設の一部に放火(2)入所者預かり金の通帳印を、施設長の印鑑と同じものにし、昼食代やポータブルトイレを入所者の負担にしていた(3)施設整備で二重契約によって得た差額3

400万円を、取引先の会社経営資金に流用——などのケースだ。

このため今年3月に行われた各自治体の担当課長会議では、こうした事例を基に「問題を抱える法人・施設が監査を受けながら、未改善のままの例がある」と指摘されていた。【野倉恵】

.....

これ以外にも、療護施設ではありませんが、毎日新聞の記事によりますと

1. 塩山市のケアハウス「サンリバー塩山」では
 - ①退職した栄養士の補充をせず、2カ月にわたり補助金を不正受給
 - ②欠員となった寮母の代わりに親族名義で、1年2カ月にわたり、補助金約300万円を不正に受給した
 - ③入所者から規定外の料金約計580万円を徴収する
2. 大阪の社会福祉法人「徳風会」では
 - ①施設入所者の給食費をめぐり、食材業者の請求書を偽造して措置費を水増し請求していた
 - ②勤務実態のない架空の職員が数人おり、人件費を不正に請求していた
3. 老人福祉施設の1994年度実態調査。厚生省自身が全国85施設を対象に調べたものによると
 - ①「施設次長がキャッシュカードを利用し、入所者預かり金から多額の金を着服していた」
 - ②「理事長(施設長)が移転補償金の差額を自己管理していたほか、架空職員の賃金やカラ出張旅費によりねん出した金額を簿外で管理」
 - ③おむつ代など本来運営費で賄うべき費用を入所者から徴収するなど「不適切な入所者負担金徴収」9施設(10%)
 - ④「床ずれ対策などが不十分」30施設(35%)

預り金というが・・・

利用者のことは放ったらかしたまま、どうやったら儲かるかを優先している施設の存在が見えてきます。まして、利用者の預り金に手をつけるとは、泥棒以外の何者でもありません。なぜ、彼らが刑事罰を受けないのか不思議でなりません。

数年前実施した全国療護施設生活調査委員会のアンケートのなかの「金品（現金・通帳・貴重品）は基本的に自己管理ですか？」（I-13-1）という設問に対し、施設長の回答（94施設）は、「はい」が59.6%、「いいえ」が39.4%となりました。

約4割もの施設では施設が管理しているのです。こうなると、預かっているのではなく、規則という形をとり、取り上げていると言っても過言ではありません。そのあげく、勝手に流用してしまうようでは、誰のお金か分かりません、利用者は泣きっ面に蜂です。

皆さんの施設では自分の現金や通帳は見たいときに見せてもらえますか、出納帳に領収書は付いていますか。通帳は無断で引き出されていませんか。

監査結果の公表を

預貯金の流用や不適切な入所者負担金徴収の被害者は利用者です。にもかかわらず、利用者には一言も知らされず、厚生省、でなければ県の監査課、と施設の間で処理されています。不正を働く施設ももちろんですが、不正があるのを知りながら、被害者には伝えなくともよしとしている役人も、利用者をないがしろにしています。

また、利用者自身が被害者にならないためにも、施設を視る眼を養うことが必要で、そのためにも監査結果が公表されるべきです。さらに、公表することで施設の風通しが良くなり、利用者の意識が変革されるからです。もっとも、措置費が税金であることから明らかなことですが。

厚生省でできなければ、県のレベルで監査結果を公表してもらうことも考えられます。そして、他人の金と自分の金も区別できない経営者にはどしどし交代してもらいたいものです。

権利擁護機関の設立を

施設が自己完結していることが不正の温床になっていると考えられますから、第三者による組織が、施設とかかわるべきです。

東京都では、痴呆性高齢者や知的障害者の権利擁護に係わる相談を、東京都社会福祉協議会が運営する「権利擁護センター・すてっぷ」でおこなっています。虐待や差別やいじめなどの日常生活相談も受けているほか、金銭についても、法律相談で相続や遺言を、財産管理相談で財産管理、年金などの日常金銭管理もやっています。（『人権ガイドラインを展望する』を参照）

今のところ、「すてっぷ」の業務対象に障害者が含まれていないのが残念ですが、「すてっぷ」のように虐待から金銭管理のまで幅広く相談に乗ってくれる第三者組織が私たちにも必要です。



質 問

パソコン通信の経費について教えて

私のNIFTY利用はほとんどメールのやりとりで、時たま、福祉のフォーラム（fhandc）を覗いています。以下に最近の3ヶ月の料金表（bill）を示します。（A）の費用は毎月必要です。（B）は接続料（メール、フォーラム利用料を含む）で8円*利用分数。草の根ネットによっては無料。（C）は有料サービスで主にFAXメール、新聞記事検索。請求額は（d）に消費税が加算されます。

これ以外にNTTの電話回線使用料、アクセスポイントが市内にあれば3分間で10円、が必要です。私の場合ほぼ千円（/月）以内。（小峰和守）

利用年月	96年12月	97年01月	97年02月
料金制度	通常料金	通常料金	通常料金
利用回数	31回	28回	33回
利用分数	176分	135分	253分
(A) 管理費	200円	200円	200円
接続料金 (B)	1,408円	1,080円	2,024円
使用権対象追加料金 (C)	480円	600円	1,160円
使用権対象金額 (A+B+C=D)	2,088円	1,880円	3,384円

生活施設居住者自治会の

人権擁護機能について

—身体障害者療護施設を中心に—

東洋大学大学院 島田 肇

私は、重度の肢体障害を負った人達が生活を送る身体障害者療護施設（以下、療護施設）における居住者自治会には、施設で生活を送る居住者や施設を利用する地域利用者の基本的人権を擁護する機能があるのではないかと、という視点から、平成8年5月から9月末日にかけて、全国の療護施設居住者自治会に対してアンケート調査をおこないました。

調査の結果は、全国の療護施設266（平成7年度現在）へのアンケート送付に対して、回収数109通（回収率41.0%）と、予想を上回る高いものでありました。以下では、その調査結果の概要を述べたいと思います。

調査を実施するにあたっては、大きく分けて4つの仮説を立ててみました。それは、

- ①療護施設は人権侵害の発生しやすい素地を有し、実際にしばしば発生している。
- ②人権擁護の機能は施設によっても担われるが、それだけでは十分ではなく、自治会活動によって、より充実した人権擁護機能が発揮される。
- ③とはいえ、自治会による人権擁護機能は、自治会の持つ能力によって、まだかなりの違いがある。
- ④自治会の人権擁護機能が期待されるだけに、自治会の設立や活動自体に対して、施設長や施設職員、さらには地域住民等による適切な援助（エンパワーメント）が必要である

これら4つの仮説に基づいてアンケート調査をおこない、その結果とそこから得られた私の考えをまとめた事項として、自治会が人権擁護機能を発揮するためには以下の4つの事柄が必要なのではないかと考察しました。それは、

- ①自治会自身が居住者の人権を擁護できると考えていること
- ②自治会が居住者との個別相談をおこなっていること
- ③自治会が施設内において認められていること
- ④施設長が自治会に対して対等に接していること、

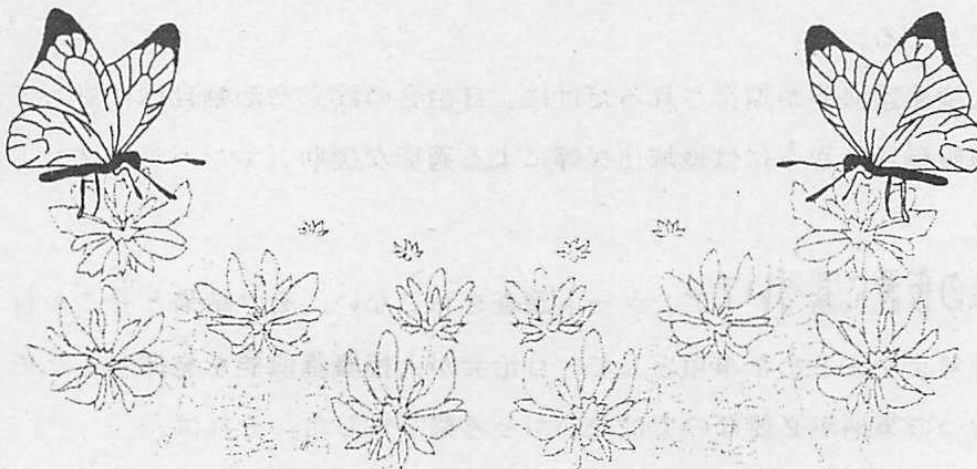
などであります。これらの事柄は、自治会が人権擁護機能を発揮するうえで大切な主観的要件と客観的要件という2つの要件に分けることができると考えます。それは「主体的意識に基づく居住者によって作られた自治会の自主的活動の必要性」（主観的要件）と「施設職員を含む施設長を中心とした援助者によるエンパワメント」（客観的要件）とであります。結論としては、「援助を受ける側」と「援助をする側」との意識と行動の両面における協働こそが、自治会の人権擁護機能を発揮するうえではなくてはならないということになります。

以上



アンケート分析など詳しい内容が書かれた島田氏の論文は大学内で発刊している「研究紀要」に掲載されることになっているそうです。その際には事務局にも送られてきますので、ご希望の方は事務局宛に、実費として300円分の切手を同封の上、ご請求下さい。

(事務局)



カーテンレールの



酒チョコに思うこと

CPシマッタ

この文章は「福祉新聞1996・10・28」に載っていたもので、施設利用者と職員の間をユニークな観点からとらえており転載してみました。「利用者は職員をどううまく使うか、そして、職員は利用者にとってどううまく使われるか」そんな呼吸をうまく合わせることに信頼関係に結びつくのではないのでしょうか。

俺は療護施設の住人である。しかも裏表が激しくある要注意のレッテルを貼られている障害者である。

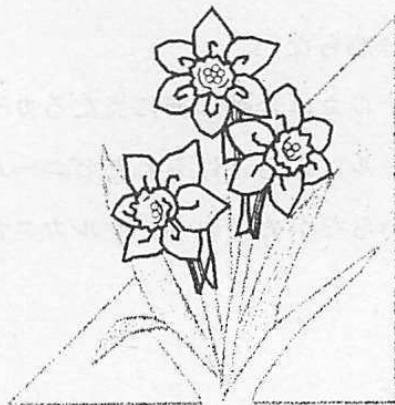
俺の部屋には個人のプライバシーを守るために付けられている間仕切りカーテンがある。見学者という見物人が来た時ちょうど俺がトイレや着替えをするという場合以外は使わない、ほとんど無用の長物となっているものだ。そのカーテンレールには買い物をした時に入れて来る半透明のビニール袋がぶら下がっていて、その中にB君が買った洋酒チョコが入っている。袋の尻の所に小さな穴があけてあり、そこから取り出せるようにしてある。

そうしたのは職員のアさんであり、コミュニケーションの材料が半分、カ

ライが半分で「こうしておけば俺にしか食べられない」ヒヒヒと独特な声をたてて笑う。

集会室の帰りなどにAさんが立ち寄り、ビニール袋の穴から洋酒チョコを取り出して何個か食べてからB君にも食べさせる。

時々、部屋の人たちの口にも入れて「これでお前らも共犯だ」と共犯者に



仕立てられるが、けっこうおいしいと思うから喜んで共犯者になっているところもある。

B君は、ほとんど自分の口に入らないことが良く分かっているはずなのに、無くなるころにはちゃんと一袋買って置く。しかし、いつもAさんに見つけられ、B君の手が届かないカーテンレールにぶら下げられたビニール袋の中に入れられてしまう。

はじめは「イヤだ、取って」とは怒ったふりをしているが、俺とB君とは三十年来の付き合いで本当に怒っている時とそうでない時は分かる。

彼は貯金を趣味にしている男なのに、なんで自分の口にほとんど入らない洋酒チョコを買うのだろうかと考えた。それはAさんがB君をカラカっているのではなく、逆にB君がAさんをカラカっているのかもしれない。

「お前、五百円で職員をカラカっているだろう」と聞くとニヤリ、ニヤリと笑いとぼけられてしまい、本当のところは分からない。

このサルカニ合戦の柿に当たるカーテンレールにぶら下げられたビニール袋を下からながめて思う。サルカニ合

戦状態は他人ごとながら大して腹を立てていない。もし腹を立てていたらヨチヨチ歩きが出来る俺だから多少無理しても立ち上がりビニール袋を引きちぎって中身をみんな落としていただろう。

それをなぜしないかと言えばAさんとB君の、ひいてはAさんと俺たちの部屋のみんなどの間にある程度の信頼関係が出来ているからだと思う。もし信頼関係が出来ていない相手に同じ行為をされていたら、サルカニ合戦状態などと笑えなかつただろう。

このことはすべて介助や介護においても同じことが言える。介助、介護に当たり同じ行為、同じ言葉でもその信頼度によっては軽く流して直ぐ忘れることもあれば、重く受け止めて後々までしこりを残す時もある。介助者がより良い介助をするためには、また逆に受け手もより良い介助を受けるためには早く相互の信頼関係を築くことが第一だと思う。

「福祉新聞1996・10・28」より

第2回障害者政策研究全国集会に

(11月30日～12月1日、神戸にて)

行ってみて

山科賢一

私は第1回の政策研究会(東京)から参加した。第2回の今回は全体会にだけに参加したが、会場いっぱいの参加者だった。

1. 厚生省がだしている障害者プランの問題点としては、障害者が主体となっていないこと、数値目標の根拠が不明確であること、地域サービスが少なくノーマライゼーションの方向性がないこと、「相談を中心としたサービス」の財源が不明確であること、あらゆるプランが理念的に作成される不安があること、などが挙げられ、もっと討議していく必要のあることが確認された。

2. 続いて、シンポジウムが行われ、パネラーによる発表があった。

斉藤縣三氏(差別と闘う共同体全国連合)からは、障害者の雇用・就労状況の展望について「障害者プラン」では不十分であるとの指摘がなされた。

横山晃久氏(HANDS世田谷事務局長)は、いいことしか書いてない「障害者プラン」によってでは、現実の施設障害者の自立は望めないとし、職員のために存在する施設の現状、親との問題などにふれた後、自立生活のノウハウを知っているのは障害者自身であると力強く述べ、施設にいる仲間を地域に取り戻したいと夢を語った。

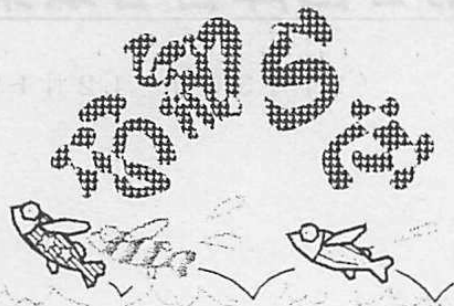
中西正司氏(ヒューマンケア協会)は昨年10月から開始された市町村障害者生活支援事業について述べた。障害者が運営主体である自立生活センターの事業が、国の政策の中で生かされようとしていること、単なる要求運動ではなく、実績がモノを言うこと、介助者の育成と障害者自身の力量の向上が課題であること、などがその内容であった。

この他、数名のパネラーからの報告があり、参加者から活発な質問がなされた。

☆名簿について

ただいま整理中ですが、公表の確認がとれない方がおります。至急はがきを投函していただけますようお願いいたします。

また、「施設に知られると追い出される」と、悲痛な叫び声も聞こえています。改めて、施設生活の悲惨さ、やるせなさをおもい知らされました。果たして、本人の了解を得たからと名簿をこのまま発行して会員諸氏にご迷惑が掛からないか、多少危惧しております。ご意見をお聞かせ下さい。



☆生活情報誌について

最近、「情報障害者」という言葉を耳にします。本来の意味とは異なりますが、立地条件という距離の壁や、不自由さという障害の壁に遮られた施設利用者こそ「情報障害者」にならないよう注意しなくてはなりません。

そこで、今回これらの壁を打ち破るひとつの手段としてパソコン通信を特集してみました。これを機に仲間が増えるよう望んでいます。

また、障害者向けの生活情報誌（例えば『WE'LL(ウイル)』：アツテクインターナショナル、『ぱりあふりー』：ベースボール・マガジン社）も発刊されており、自立生活、旅、おしゃれ、スポーツ、グルメなどあらゆる情報が載っています。これらも参考になると思います。なんとか、不自由なのは体だけにとどめたいものです。

療護施設自治会全国ネットワーク機関誌 『あした』 No 9	
発行日	: 1997年 5月15日
発行者	: 『療護施設自治会全国ネットワーク』事務局
連絡先	: 〒204 東京都清瀬市3-1-72 東京都清瀬療護園
	TEL. 0424-93-3235 (代表) FAX. 0424-93-3234
郵便振替	: 『療護施設自治会全国ネットワーク』 00180-0-715838

療護施設自治会全国ネットワーク